



未来をつくる!

あたらしい

平和学習

① 平和学習をはじめよう

監修／大芝亮
著／稲葉茂勝



岩崎書店

「平和教育」とは

「平和教育」とは、学校の授業、学級活動、行事など、また、学外でも、あらゆる機会を利用しておこなう平和学習のことです。その目的は、平和な社会をつくろうとする人「平和形成者」を育てることです。

学校ではよく、国語の授業で児童文学、絵本、詩、体験記などを読んで平和について考えたり、近・現代の日本史の学習とからめて、社会科の時間に学習したりしています。また、学級活動・行事をつかって、さまざまな平和学習がおこなわれています。ドラマや映画、アニメ、絵画などの資料を見たり、音楽を聞いたり、戦争体験者を学校に招いて体験談を聞いたりする平和学習などもあります。

でも、平和学習は、教室で机にすわっておこなうものとは限りません。平和資料館など、いろいろな場所へ行って学習することもあります。全国各地から広島や長崎、沖縄へ修学旅行でいく際に平和学習をおこなう学校もあります。また、近年では、いろいろな人にインタビューをしたり、話しあったりするアクティブ・ラーニング（→3巻）という方法によって、平和学習がおこなわれるようになりました。

ところで、2020年は、新型コロナウイルス感染症により、世界中の人びとがそれまでの生活を送れなくなってしまいました。学校の授業の仕方も変わりました。人びとの価値観がかわりつつあります。

これと同じようなことが、以前にもありました。第二次世界大戦です。戦争の前とあととでは、世界中の人びとの生活や価値観が大きく変わりました。しかし、終戦から75年以上が過ぎ、その戦争の記憶はすっかりうすれてしまっています。

こうしたなかで、ぼくたちは、みなさんに先の戦争についてしっかり認識し、平和形成者になってほしいと願って、このシリーズを企画しました。

未来をつくる！ あたらしい平和学習

①平和学習をはじめよう

監修／大芝亮 著／稲葉茂勝

②文学・芸術でふれあう平和学習

監修・著／赤木かん子 著／稲葉茂勝

③まちに出て平和学習

著／稲葉茂勝 編／こどもくらぶ

④修学旅行での平和学習

著／稲葉茂勝 編／こどもくらぶ

⑤平和のための国際連合

監修／中満泉 著／稲葉茂勝

※⑤は、戦後の世界は国際連合（国連）を中心として世界平和をつくってきたにもかかわらず、近年国連に対する日本人の期待度が低いといわれていることから、このシリーズに組み入れたもの。

2020年のコロナ禍で世界が激動し、2021年もその状況は続いています。平和を守りつづけるという意志は、コロナ禍でも戦禍でも絶対に失ってはならないのです。

子どもジャーナリスト
Journalist for Children 稲葉 茂勝

もくじ

1 「平和学習」ってなに？	4
「教育」と「学習」のちがい／アクティブ・ラーニング／「平和教育なんか、いらない！」という考え	
2 今でも世界は戦争だらけ	6
戦争している国・していない国／日本のまわりの国は平和ではない！	
3 そもそも「平和」とは？	8
国際社会とは／日本とロシアは戦争状態？／「消極的平和」と「積極的平和」	
アニメ『平成狸合戦ぽんぽこ』	10
4 日本と戦争	12
PKO法とは／日本が平和でなくなる可能性	
日本国憲法	14
5 日本のまわりの海で続く争い	16
北の海では、ロシアと／日本海では、韓国と／南の海をめぐる／もうひとつの心配 沖ノ鳥島	
6 戦前の戦争の記憶がうすれてきている	20
悲惨な戦争を終わらせよう！／国連ができるまで／日本の国連加盟／21世紀になると／そうした状況の背景	
7 「改憲」の動き	22
時代に合わないといわれるいろいろな理由／憲法改正の手続き／改憲に反対する人たち／国民投票法の改正	
8 ますます必要性を増す「平和教育（学習）」	24
ふたつの平和教育／暴力の種類は3つ	
自分にとっての平和とは？	26
9 戦争と感染症	28
感染症と平和学習／あたらしい平和学習／感染症によってこわされた平和	

用語解説…………… 30

さくいん…………… 31

ぼくも、みんなと
いっしょに勉強
させてね。



平くん

わたしも、みんなの
平和学習につれて
いってください。



かずちゃん

南の海をめぐる

日本列島の南方、東シナ海のはずれには「尖閣諸島」とよばれる無人の島じまがあります。この島の領有をめぐる、今も、日本、中国、台湾は、はげしく対立しています。中国、台湾の主張を知っておきましょう。

中国の主張

- ①尖閣諸島のことについて書いてある古い文献が中国で発見された。
- ②日本が尖閣諸島を自国の領土であると宣言したのは、中国が日清戦争に敗れて弱体化していたときだ。
- ③日本は、第二次世界大戦後のサンフランシスコ平和条約により、日本が日清戦争で中国からうばった台湾や澎湖列島（諸島）を返却した。そのときに尖閣諸島も返還すべきであった。

むずかしいけれど、わたしは日本人だし、やはり、日本の主張が正しいと思うけれど……。



中国や台湾の主張も聞いた上で、よく考えないとね。

台湾の主張

- ①1949年、蒋介石率いる国民党が中国から台湾にわたった。台湾が尖閣諸島を領土だと主張する根拠は中国と同じ。
- ②尖閣諸島は、中国よりも台湾に近い。

日本の主張

- ①だれも支配したことのない土地は、自分の国のものだと宣言し実際に統治すれば、その国のものになる。
- ②中国は、実際に統治してこなかったので、領有を主張する権利はない。
- ③尖閣諸島は、戦争をして日本が中国からうばったものではない。日本は、中国が尖閣諸島を支配していないことを確かめたのちに、沖縄県に編入した。サンフランシスコ平和条約で返却すべきとされた地域にもふくまれていない。

もうひとつの心配 沖ノ鳥島

北緯20度25分に位置する沖ノ鳥島は、日本の最南端で、東京都に所属しています。サンゴ礁から成り立っている4.5km×1.7kmの広さのこの島は、満潮になると大部分が水面下に沈んでしまい、高さ70cmほどが水面から顔をのぞかせるだけ！ それでも「満潮時でも水面に沈まない」という国際法で定められた島の条件にあてはまるので正式な島とみなされています。しかし、中国が、沖ノ鳥島を「島」と認めず、日本の排他的経済水域に侵入する事件が起きています。

日本の排他的経済水域



* 海底の地形や地質が一定の条件を満たす場合に、国連海洋法条約の規定にもとづき200海里をこえて権利を主張することができる領域。



東京から南におよそ1700kmはなれたところにある沖ノ鳥島。北小島と東小島の2つからなる。

8

ますます必要性を増す 「平和教育(学習)」

2020年、新型コロナウイルス感染症により、世界中の人びとがそれまでの生活を送れなくなりました。学校の授業もかわりました。人びとの価値観がかわりつつあります。こうしたなかで、「平和教育(学習)」のやり方もかわってくるかもしれません。

ふたつの平和教育

第二次世界大戦が終結したあと、日本では日本国憲法の下で「二度と戦争をしてはいけない」「核兵器をなくさなければならない」と、反戦の気運がどんどん高まっていきました。かつて日本が経験した戦争について知り、なぜ戦争が起こったのか？ どうしてとめられなかったのか？ などを考える平和教育が日本中に広がりました。

その中心になっていたのは、核兵器の廃絶に向けて声をあげることのたいせつさ

を理解するといった反核*の教育でした。これを「消極的平和教育」といえるでしょう。そうこうしているうちに、社会・経済の変化とともに、近年では平和教育にも少しずつ変化が見られるようになり、「消極的平和教育」から「積極的平和教育(→右ページ)」へとうつっていきました。

* 核兵器の製造・実験・所有・使用などに反対すること。

2020年度から学校でSDGsを学習するようになったのも、その一環なんだって。



広島平和都市記念碑に献花をし、握手をかわすバラク・オバマ大統領と安倍晋三首相(2016年5月)。現職のアメリカ大統領が広島を訪問したのは、これがはじめてだった。



国際女性デー(3月8日)に男女平等を主張して行進する女性たち。社会のしくみが原因で生まれる男女の不平等は、構造的暴力のひとつ。

暴力の種類は3つ

9ページで記したふたつの平和のうち「消極的平和」の反対語は「直接的暴力」ですが、「積極的平和」の反対語はというと「構造的暴力」となります。もちろん「暴力」のなかには、「戦争」がふくまれています。

「暴力」という言葉は、広い意味では、貧困や飢餓、不公正・不平等などを引き起こすものの

すべてをさします。広い意味での「暴力」は、「直接的暴力」「構造的暴力」「文化的暴力」の3つにわけることができ、それぞれの例は、下のとおりです。直接的暴力だけでなく「構造的暴力」や「文化的暴力」など、これらすべての暴力をなくそうというのが、近年さかんになってきた「積極的平和教育」で、近年の平和教育の中心になってきました。

直接的暴力

戦争・紛争
虐殺
家庭内暴力

構造的暴力

貧困
飢餓
差別
疎外
搾取

文化的暴力

他者への不寛容
偏見
憎悪
無関心